

国際連携本部フランス研究主催イベント

日本で暮らす外国人 サルトルから考える仮放免者問題と私たち

日時：2019年11月28日（木）15:20-17:00

会場：明治大学 和泉キャンパス 第二校舎 5番教室

講師：永野 潤 氏（首都大学東京等非常勤講師）

日本には、入局管理局から国外退去命令を受けたものの、難民の申請中である、日本に家族がいるなど、帰国できない事情を抱える外国人が暮らしています。書類上、「仮放免者」と呼ばれる人たちです。仮放免者の多くは、入管の収容所できびしく長い収容生活を送った経験を持ちます。2007年以降で収容中（手続き中も含む）に起きた死亡件数は15件にのぼります。本講演では、「反ユダヤ主義はユダヤ人の問題ではない、われわれの問題である」「第三世界は郊外にはじまる」という言葉を遺した、フランスの哲学者サルトルの人種差別・植民地主義に関する思想を手がかりに、日本における外国人収容の歴史をたどり、現在の難民・移民問題と日本社会、つまり私たちとの関わりについて考えたいと思います。

講師の主な著書

- ◆『イラストで読むキーワード哲学入門』（白澤社，2019年4月）
- ◆『サルトルの知恵——孤独とうつの時代を生き抜くヒント』（青春出版社，2011年7月）
- ◆『図解雑学サルトル』（ナツメ社，2003年8月）

※申込不要・入場無料

お問合せ先：明治大学国際連携事務室
E-MAIL: ico@mics.meiji.ac.jp